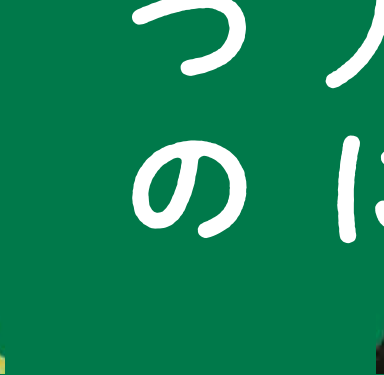


本州最北端に位置する自然豊かな青い森。  
春はさくら、初夏はみどりが萌える。夏には  
あかあかと炎を灯し笛や太鼓にラッセ  
ラー。ヤーヤドー。ヤッテマレ。派手な山車  
がねり歩く。まちから囃子の音が消えると  
すこしさみしいような気持ちになるけれど、  
目をあげると青い空に黄金の田、たわわ  
に実る果実たち。青森の秋は彩度が高い。  
ああ、もうすぐ冬が来るな。monoな世界。  
とってもきれい。わたしは青森がすきなん  
だ。青森に暮らし、青森を生きる。ここから  
はじめよう。未来の物語を。



# 物語 一人一人の



令和5年度

青森県職員採用総合案内



青森県人事委員会事務局 任用担当

〒030-0801 青森県青森市新町二丁目2番地11号 東奥日報新町ビル4階  
TEL 017-734-9829 / FAX 017-734-8242 / MAIL shokuinsaiyou@pref.aomori.lg.jp

# 青森県って どんなところ?

人口  
**1,237,984**人(R2.10.1現在)

県総面積  
**9,645.62**km<sup>2</sup>(R3.10.1現在)

市町村数  
**40**(10市 22町 8村)



県では、地域の特性を生かした魅力と活気ある地域づくりを進めるため、総合的な出先機関として、県内6つの地域県民局を設置しています。

- 東青地域県民局
- 西北地域県民局
- 中南地域県民局
- 上北地域県民局
- 三八地域県民局
- 下北地域県民局

## 青森県の組織と仕事



※令和5年3月1日現在

## CONTENTS

- P1----- 青森県ってどんなところ?
- P1~P2----- 青森県の組織と仕事
- P3~P10----- 先輩の声
- P11~P12----- とある1日のスケジュール
- P13~P14----- 育児休業を活用した先輩の声
- P15----- 勤務条件と待遇
- P16----- 人材育成と研修制度
- P17----- 自らチャレンジできる制度
- P18----- 新採用職員の本音
- P19~P21----- 採用情報
- P22----- 採用試験Q&A

## 私達が取材しました!

石田 奈々 弘前大学

県庁を志望している方、また悩んでいる方に入庁したいという気持ちを強めてもらえたらと思い、「受験者目線」を意識して取材に取り組みました。私が一番気になっていたのは「入庁の決め手」です。私自身、就活について考え始めているのですが、情報を集めれば集めるほど悩んでしまい絞り込めずにいます。「何を最重要視して就職先を決めるのか」という疑問は多くの人が感じているのではないかと思います。職員の方々の「入庁の決め手」となったエピソードを取材したので、ぜひ参考にしてください!



女川 茉菜 弘前大学

取材前は、青森県庁は「お堅い」組織で、上下関係が厳しくて、残業ばかりで、個々人で仕事をしているような冷たいイメージを持っていました。しかし、全員から「周りの人に相談しやすい」という声を聞き、周りの人に頼れる雰囲気があるのだと感じました。また、私は文系の学部なので、技術職の方のお話を聞いたり、仕事について調べたりするのは初めてのことでした。県土整備部では、【あおもりドボジョッキら推進チーム】を設け、土木系職種の業務の魅力や活躍の状況を SNS 等で広く発信していることや、道路に穴ぼこがないかどうかを毎日パトロールする業務があることを聞いて、日頃から安心・安全を守るやりがいのある仕事なのだと思います。現場で働く人はキラキラしていてかっこよかったです!



## 庁内ベンチャー制度にチャレンジ 県民の運動習慣改善に取り組む

**舘山 大輔** 藤崎町出身  
健康福祉部 がん・生活習慣病対策課

平成25年～ 健康福祉部 高齢福祉保険課  
平成27年～ 東青地方漁港漁場整備事務所  
(現東青地方水産事務所)  
平成30年～ 健康福祉部 こどもみらい課  
令和 2年～ 健康福祉部 がん・生活習慣病対策課  
(兼務:企画政策部地域活力振興課)  
令和 3年～ 現所属

「一歩前進!大人の運動習慣改善ムーブメント事業」(庁内ベンチャー制度 ※詳細P17)を担当しています。青森県の働き盛り世代の生活習慣病による死亡率が全国と比較して高いという問題に対応するため、生活習慣の中でも特に運動習慣に着目し、県民の1日当たりの歩数を1歩でも増やすことを目的に、歩くことへの親しみを醸成するイベントやキャンペーンを企画・運営しています。

この事業は、平成31年度からスタートする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大によって集客を伴うイベントの実施が困難となり、延期を余儀なくされました。そうした中で1年間、別の所属でコロナ関連の前向きな情報発信の仕事を担当することになり、県民へ「どうすればうまく伝えられるか」、「興味を持って参加してもらえるか」を学ぶ絶好の機会となりました。この経験が、運動嫌いの人でも興味を持って参加してもらえるイベントを考える際に大いに役立ち、多くの県民に参加していただくことができました。

このようなイベントを考える際に心がけていることは、細かい部分でもこだわって仕組みを考えていくことです。「神は細部に宿る」をモットーに、全体を見た時にも大きな効果があげられるように意識して仕事を進めています。

県職員でありながら、ベンチャー事業も経験できる◎舘山さんのパワーに圧倒されました。



## 専門的な仕事ができる職場で 地域への貢献を実感

**小谷 菜穂子** 八戸市出身  
県土整備部 整備企画課

平成31年～ 上北地域県民局 地域整備部  
令和 4年～ 現所属

土木系人材の確保・育成に向けた取り組みを担当しています。土木の仕事に就く人が減少しているため、道路等のインフラに興味を持ってもらえるよう「インフラ出前授業」を小中学校等でを行っています。

学生時代に、県庁の土木系公務員セミナーに参加した際、青森県が行っている事業の大きさを知りました。もともと専門的な仕事をしたいと希望していたので、大きな工事に携わる機会のある青森県庁への就職を決めました。

前任地の上北地域整備部では、道路工事の現場を担当していました。天候や現場状況により計画通りに進まないこともありましたが、先輩、上司に相談しながら建設業者さんと打ち合わせを重ねて完成することができました。道路が完成したことで、地域の方から便利になったと感謝され、貢献できたことを実感し、やりがいを感じました。

現在は、八戸市から新幹線通勤をしています。県職員は異動があるので、県内のさまざまな土地で経験を積むことができ、人間関係も広がりますし、新しい場所で暮らすこともできます。そうした選択肢があると同時に、私のような通勤スタイルが叶うのも青森県庁だからだと思っています。

男性ばかりの職場をイメージしていましたが、小谷さんの他にも多くの女性職員がいて驚きました。ドボジョ(土木系女子)かっこよかったです。



平成25年度  
採用

行政

平成31年度  
採用

総合土木

# 新採用

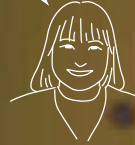
## 視野を広げて先輩から学ぶ 毎日が勉強の日々

佐藤 光 岩手県出身 農林水産部 農産園芸課

弘前大学への進学を機に青森県に来ました。大学で花きや野菜などの農業分野を専攻していたことや、農家・農村サポートサークルの活動を通して青森県の魅力に気づいたことがきっかけで農業職を目指しました。担い手不足が懸念される今、生産者が活躍するからこそ成り立つ農業分野で、今ある県の魅力をさらに発展させることのできる業務に携わりたいと思い、本職を志望しました。現在は、冬の農業の振興対策に関わる業務を主務とし、ながいも、にんにく、ばれいしょの優良種苗供

給や野菜等の各種調査、臨時農業生産情報の発行なども担当しています。社会人一年目なので、難しいと感じる仕事も多く、働いているとどうしても自分が担当する業務にばかり集中してしまっていますが、視野を広げて先輩方の業務から多くのことを吸収するようにしています。その結果、意外なところで業務に役立ち、知見を広げることができると、毎日が勉強の日々です。慣れるまでは大変ですが、優しい上司にも恵まれ、職員の一として責任感を持って働くことができています。

勉強することが多く、忙しい時期は残業することもあるそうです。→P17で7日のスケジュールを紹介しています。



令和4年度採用  
農学

# 風間 健太郎 弘前市出身 商工労働部 産業立地推進課

大学時代は東京で暮らしていました。就職を考えていた時期に、青森県庁のインターンシップに参加し、職場の雰囲気が自分には合っていると感じました。また、東京事務所のように青森県外で働く機会がある等、とにかくたくさんの仕事があることが県庁の魅力だと思いました。私は、家族の転勤に伴い他県で暮らした経験もあるので、外から眺めた青森県の魅力の発信や発展に貢献したいと考えUターンすることに決めました。現在は、企業誘致を担当しており、県外企業にさまざまな候補地の中から青森県が選ばれるように誘致活動をしています。新採用ながら、企業のトップと話す機会や営業職のような仕事もあり、多くの人と接する機会があります。新人なのでわからないことも多いですが、上司をはじめ、同僚にも相談や質問がしやすい雰囲気です。青森県の良いところを紹介する広報研修や、仕事に必須となるコミュニケーションスキルを高める内容の研修も充実しており、若手職員のアイデア提案を応援する「庁内ベンチャー制度」等、チャレンジできる制度が整っていることも青森県庁の魅力です。

## 成長させてくれた 自然豊かな青森県に恩返し



令和4年度採用  
教育事務



充実した研修メニューや  
庁内ベンチャー制度等で  
チャレンジできる

希望に応じて様々な研修を受講できるのが良いなと思いました。→P16で研修制度を紹介しています。

令和4年度採用  
行政

# 中村 瑞樹 八戸市出身 青森市立古川小学校

学生の時に、校外学習で三陸復興国立公園内の蕪島や種差海岸をガイドするボランティアや白神山地でのキャンプに参加していたので、青森県の自然や県民の優しさに触れる機会が多く、青森県の自然の中で成長させてもらったと感じています。そうしたことから、私を成長させてくれた豊かな自然のある青森県に恩返しをしたいと思い県職員になりました。現在は、小学校の事務職員として、教職員の給与や旅費の請求、教育活動に必要な備品を購入・管理する業務を担当しています。また、文書の受付や発送、教科用図書を手配する業務も担当しています。1年目なので、わからないことも多く大変ですが、相談しやすい雰囲気や、先輩方に教えてもらいながら業務に取り組んでいます。仕事をする上で、子どもたちが生き生きと勉強や運動に取り組み、先生方が働きやすい環境づくりを心がけています。

教育事務で採用されると、市町村立の小・中学校等で勤務することもあるそうです。本当に色々な職種があるんですね。→P20で職種を紹介しています。

**坂本 大河** 弘前市出身 商工労働部 新産業創造課

平成29年～ 上北地域県民局 県税部  
令和 2年～ 現所属

大学時代に海外留学をした際、クラスメイトから「京都是知っているが、青森は知らない」と言われ悔しい思いをしたことから、世界の人に地元をPRする仕事がしたいと思うようになりました。

就職先は県庁か市役所かで迷っていましたが、青森県主催のビジネスキャンプに参加した際、県職員の方や地元で活躍している事業者の方と接したことがきっかけで、より大きなスケールで仕事ができる県庁で働くことに決めました。

現在、県内企業による新たなビジネス展開を促進するため、本県由来の未利用資源を活用したアップサイクル製品の開発を支援しています。具体的には、りんごの搾りかすや、ほたての貝殻など、未利用資源を排出する企業とそれを活用する企業等をマッチングしている他、関連企業を対象にしたセミナーの企画運営を主に行っています。どんなに画期的な取り組みを企画しても、県内企業の利益につながらなければ意味がありません。企業のニーズを把握するため、また、担当者信頼関係を築くためにも、1社1社に直接足を運び、現場の声に耳を傾けることを大切にしています。



より大きなスケールで  
仕事ができる

留学を通して、より地元青森が好きになったそうです。

平成29年度採用  
行政

**藤原 拓也** むつ市出身 県土整備部 道路課

平成29年～ 下北地域県民局 地域整備部  
令和 2年～ 上北地域県民局 地域整備部  
令和 4年～ 県土整備部 道路課

社会人卒で民間企業から転職しました。前職では、トンネルの中に設置する機器の開発を担当しており、東京都内、宮城県内で勤務していました。宮城県勤務の時に、青森県と行き来する機会が増え、青森県職員への転職を考えるようになりました。

現在は、無電柱化事業や踏切道改良事業等、道路事業を推進する業務を担当しています。無電柱化の一番の目的は「防災」です。電柱が倒れてしまうと、道路を塞ぎ、車の往来ができなくなります。また、踏切では、踏切前後の道路の幅員が狭く危険な箇所を拡幅するように進めています。2022年8月に発生した大雨災害時には、関係機関と道路状況についての情報を共有したり、SNS等を活用して交通規制情報を発信したりする業務を行いました。住民と直接話す機会も多く、ダイレクトに青森県の人と関わり、貢献しているという充実感があります。庁内では「みんなで協力してやっていきましょう」という雰囲気を感じています。



民間企業から転職  
ダイレクトに県民と関わり  
貢献できる充実感

事務職・技術職問わず民間企業等から就職した職員が結構いらっしゃるそうです。

平成29年度採用  
総合土木  
社会人卒



有給休暇でリフレッシュ  
時差出勤で時間を有効活用

平成28年度採用  
行政

有給休暇は周りの職員も取る人が多く、気兼ねなく取れる環境だったとのことでした。

**工藤 祐里** 黒石市出身 総務部 市町村課

平成28年～ 健康福祉部 障害福祉課  
平成30年～ 三八地域県民局 県税部  
令和 3年～ 現所属

現在は、市町村と総務省のつなぎ役として数値の照合や報告、確認を行っています。その時の財政の状況を知る必要があるため、新聞やニュースをチェックしたり、わからないことがあれば自分なりに調べたりしながら仕事を進めています。

業務の中には自分一人ではできない仕事もたくさんあります。そういう時は自分一人だけで仕事をしようとせず、同じ職場の上司や同僚、他の課の人の手も借りる一方で、自分も周囲の助けになれるように心がけています。

業務によって忙しい時期・比較的余裕がある時期があるので、比較的余裕がある時期にはなるべく休暇を取る等、自分自身のリフレッシュをし、生活にメリハリがでるように心がけています。また、黒石市から通勤しており、時差出勤制度を活用して電車時刻に合わせて15分早出勤することで、日頃から時間を有効に活用しています。



手厚い専門研修で  
スキルアップを実感

平成30年度採用  
化学

職種を問わず受講できる研修に加え、専門研修もあり、本当に充実しているなと思いました。

**米内山 愛望** 東北町出身 危機管理局 原子力安全対策課

平成30年～ 青森県原子力センター  
令和 3年～ 現所属

生まれも育ちも青森県で愛着があり、青森県で暮らしている人たちのために働きたいと思い、入庁しました。

県内原子力施設周辺市町村や住民の原子力防災対策を講じるために国の交付金を活用しており、現在は、その交付申請及び実績報告に関する業務や、原子力災害時に国・県・市町村等と確実に情報伝達を行うための緊急時連絡網の機器整備・維持管理関係業務を主に担当しています。

仕事をする上では、各業務の目標と優先順位を立てることを心がけています。業務の優先順位を決めることにより、各業務のスケジュールが立てられるため、業務が立て込んでいる繁忙期においても、処理期限に対して余裕を持った対応ができ、業務の正確性につながると考えています。また、関係機関に照会を行う際には余裕を持った期間を設定するといった、相手への配慮が大切だと考えています。

専門研修(環境放射能分析や原子力防災業務に係る研修等)が手厚く、自分自身のスキルアップを実感できる職場です。

**研修制度が充実しています!**

「新採用者研修」では、社会人の接遇を教えてくださいました。学生から社会人になりたては、不安と心配がありましたが、研修がありよかったです。中でも、メンタルヘルスの科目では、自分自身はもちろん、同僚のメンタルヘルスを整える対処法を教えてくださいました。

平成30年～ 上北地域県民局 地域整備部  
令和 3年～ 現所属

将来、県内で医師として勤務していただく自治医科大学の医学生への支援や、入学試験に関する業務を担当しています。また、県内のへき地に医療を届けるために、医療機関と連携した巡回診療等を実施する「へき地医療対策事業」も担当しています。

また、「地域医療支援センター設置運営事業」の1つとして、県内外の医師や医師を目指す中高生に向けて、青森県の医師確保に関する取り組み等を紹介・情報発信する医師応援サイトの運用・管理も行なっています。青森県は医師が少なく、へき地に暮らしている方に医療をどのように届けていくかという課題があるため、県では地域の大きい病院を指定して、へき地に巡回診療を依頼し、年間にどのくらいの回数が行われ、来年はどのくらいやるのかを話し合っています。へき地にも医療が行き届くようにする仕事に自分が携わっていると思うと、やりがいを感じます。

県職員の業務は、人を相手にする仕事です。説明する時、資料を作成する時、メールをする時等、常に、相手の目線に立って考え、よりわかりやすく伝えることを意識しています。

「ここで暮らしてよかった」と思える青森県をつくりたいと思い、日々仕事と向き合っています。



医師応援サイト  
「森ノ森aomorij」



「ここで暮らしてよかった」と  
思える青森県をつくりたい

平成30年度  
採用  
行政



前の職場が一緒でも仲良い。  
同期の職員が多いと  
仕事も楽しそう。

青森の「食」を支える



平成29年度  
採用  
農学

農林水産業が盛んな青森県。  
農学・畜産・林業・水産といろいろな  
職種の職員がいることに驚きました。  
→P20で職種と職務内容を紹介しています。



平成29年～ 三八地域県民局 地域農林水産部  
令和 2年～ 現所属

大学で学んだ農業の知識を活かしながら県内で働きたいと思っていたので、県職員を選びました。

大学では農学生命科学部に所属していましたが、直接、農業に触れる機会は少なく、入庁してから青森のりんごやにんにくの作り手の顔を見ることができてとても嬉しかったです。

現在は、担い手育成グループで、農業・農村を支える多様な担い手の確保・育成に取り組んでおり、若手農業者の組織活動に向けた支援を行っています。特に、「農作業安全対策事業」において、農作業安全に関する知識や技術の普及・啓発を図るため、関係機関と連携しながら事故を起こさないようにするための各種講習会の開催や農作業安全指導員の育成に取り組んでいます。

青森の「食」を支えてくことができるのが魅力だと思っています。

令和 2年～ 現所属

青森県は三方を海に囲まれ、更には陸奥湾を有しており、全国でも有数の水揚げ量を誇っています。水産職は、県庁の他に県内4箇所(青森、むつ、八戸、鯉ヶ沢)の出先機関で、地域ごとに異なった漁業(青森市だと陸奥湾でホタテがよく取れ、八戸市では太平洋でスルメイカがよく取れる等の違いがある)に直接触れ、業務を経験できることが魅力だと感じています。

現在、私は、青森県で漁獲される海面魚介類の漁獲数量、金額を取りまとめる業務を担当しています。本県の沿岸漁協から魚種別、漁業種類別等のデータを収集し、月報の作成、オープンデータカタログでの公表、年度末には年報の作成を行っています。このデータは、本県水産業の実態の把握(漁獲量が減った原因を探る)や水産業振興上の基礎資料に役立っています。

また、デスクワークだけではなく、仕事上、会議や電話でたくさんの人と関わる機会があります。そこで知り合った人、仲良くなる人が増えることで自然と人脈が広がります。そうすると、自分が困った時にその分野の詳しい人に尋ねたり、情報交換をしたりすることができます。どの業務でも人との関わりが大切だと実感しています。



漁業に直接触れ業務を経験  
多くの人と関わり人脈が広がる

本物のホヤから  
作ったランプを  
持ってニコリ

令和2年度  
採用  
水産



健やか力向上推進  
キャラクター  
「マモルさん」

「マモルさん」の職場  
は女性も多く雰囲気  
とっても良かったです。

がん・生活習慣病対策課の課内の様子